[事案 2023-147] 新契約無効請求

・令和6年3月18日 裁定終了

※本事案の申立人は、[事案 2023-148] の申立人の配偶者である。

<事案の概要>

募集人の誤説明を理由に、契約の無効を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成29年6月に契約し、令和4年12月に解約した終身保険について、以下の理由により、契約を無効として、既払込保険料と解約返戻金との差額を支払ってほしい。

- (1)募集人がアポイントなしで訪問し、保険を勧めてきた。今入らないと入れなくなると言われた。
- (2)他に生命保険に加入していたため、貯蓄型の保険を希望した。
- (3)長生きすると得をする「60歳後、5年ごとに80万円ずつ貰える保険」だと説明されたが、実際には全く違っていた。

<保険会社の主張>

以下の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1)意向確認書の「保険商品に対する意向」をみると、申立人は資産形成ではなく保障性の商品の意向を有していたと考えられる。
- (2)「60歳後、5年ごとに80万円ずつ貰える保険」は、別の種類の保険のことであり、募集人が本契約のこととして説明したとは考えられない。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約時の状況等を把握するため、申立人および申立人の夫に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、募集人の誤説明は認められず、保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。